１０月 20 日（火）４校時、４学年２組で社会科「郷土の伝統文化と先人のはたらき」で、「日本の伝統文化とは何かを調べよう」ということで、まず調べました。こどもたちは、考えながら意見を出しました。

日本の伝統文化には、着物、けん玉、習字、神社、海苔、こまなどが挙がりました。ほかにも、相撲、ひな祭り、お会式などがあることを知りました。







次に、「東京の伝統文化とは何か」を調べていきました。





東京の伝統文化：

・歌舞伎、浴衣、染小紋、江戸切子、そばなどがあがりました。隅田川花火大会、お会式もありました。

「なくなってもよいものか？」という教師の問いには、「最低限、残しておきたいもの」とつぶやいていたこどもたち。伝統芸能とは、日本に古くから伝わる芸術や技能のことであることを知りました。都内で、６つの伝統芸能（お祭りや踊り）がとても大切であることを知りました。６つの共通点は？違いは？何だろうと考え、各々が声を出していました。

・踊り？

・着物を着ている？

・若い人がいない

「国指定重要無形民俗文化財」というものに指定されている踊りやお祭り・・・。



古くから伝わる下平井の鳳凰の舞、江戸の里神楽（稲城市）、鰹釣り行事（新島）、鹿島の大踊り、田遊び（板橋区）、鹿島おどりの６つのこれらを地図で調べ、つなぎ合わせていきました。





「鹿島踊り」は、小河内ダムを造るために、底に沈んだ「旧小河内村」・・・・。担任の篠崎教諭からのお話を聞いて、「学習課題を立てよう」と、こどもたちの言葉で、しっかりと立てました。

「鹿島踊りは、だれが、どのようにして、受け継がれてきたのだろうか？」



気になる鹿島踊りについて、次の時間が楽しみです。

１０月２３日（金）１校時、５学年２組「で道徳科「偉大な役割」では、「自分の役割を果たすときに大切なことは何だろう」という目当てで学習に取り組みました。

「健太」の気持ちを考えながら、読み深めました。

「健太」になりきり、「心のもの差し」を使って、自身気持ちを張り出しました。

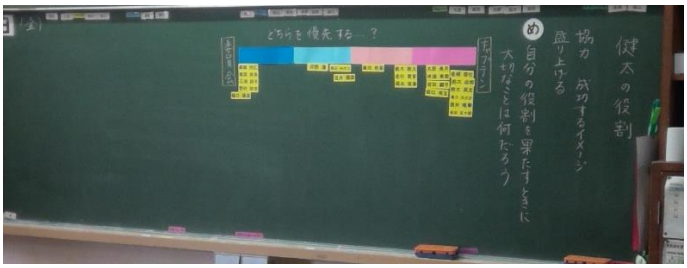












みんなの考えをだしあいましょう。

＜委員会派＞

・怒涛の選択肢であり、結局誰かに迷惑がかかるから、決められない。例：キャプテンを休んだら、まとまらない、ポスターが完成しないなどの迷惑がかかるから。

・サッカーのことで委員会を休んでいるから、でもサッカーもなぁと思っている。

・委員会では締め切りがある。サッカーの大会は来月だから、調整すればいいから、頼めばいい。

・キャプテンは来年やってもよいのでは？副キャプテンなら来年できる？
・提案したのは自分自身だから、責任持ってやることが必要である。
・健太は、委員会をやって今日やらないと終わらないから、業務が終わらない。キャプテンをやりたい気持ちはわかるが、サッカーのことは来月や来年にもある。
・＜サッカー派＞
・どちらかというとキャプテンが大切。
・自分がやりたいキャプテン。地区大会に向けての備えが必要だから。・ポスター提案は健太。サッカーでは健太を仏用としている人が多いと思った。
・個人的にはキャプテンになれるのであれば、目立つキャプテンなれるチャンスがあるのであれば、キャプテン代理をする。委員会の人にもちゃんと説明する必要がある。
・自己中心的だけど、委員会には他に２人いるから、健太は副キャプテンだから優先させたほうが良い。
・委員会も大事。副キャプテンでやり、キャプテンのほうが大切。天秤にかけたら、キャプテンのほうが荷が重い。

サッカーを選んだ際よい点　　困る点　　委員会を選んだ
よい点　　困る点

・キャプテンができる　　・委員会の迷惑が掛かる　　・ポスターが完成　　・差が出る
・大会で勝てる　　・ポスターが終わらない　　・迷惑は掛からない　　・やりたい、できない
・実力が同じ　　・責められる　　・期日を守る　　・チームに責められる
・　　楽　　しい
・まとめられない

・ベンチ入りのみ





自分の役割を果たすとき、大事なことを考え、ペアで意見を交わしました。

・選ぶときに優先することを考えることや、周りにフォローをすること、相手に納得する理由を述べること、提案するときに責任をもってできるのかを考えるなどの意見が出ました。











担任の吉澤教諭からは、集団の中で、特に運動会での自分の役割を考えてほしいことを伝えました。

応援団の仲間が頑張って応援をしているけれど、クラスのみんなの取組を振り返ると、小さな声、協力できていなかったことが見られたことを知らせました。他者を思いやった行動をしてほしいということを伝え、委員会もキャプテンもどちらも大事。しかし、クラスのみんながかかわる仕事の大切さを理解して、自身の役割を発揮していくことが大事であることを伝えました。

こどもたちの中には、運動会での自身の役割を、棒体操の痛みを気にせず、できるイメージ（成功するイメージ）をもって、協力的にする必要があることを述べていました。

当日の運動会で、皆で声を掛け合い、力を存分に発揮していた姿があり、とても頼もしかった５年生でした。